



サルビア

令和2年4月16日 第3号

いつものように、お家で俳句を作ってみましょう

赤堀東小学校のみなさん、こんにちは。新型コロナウイルス感染防止のためのお休みが続いています。校長先生には、「早く学校に行きたいなあ」「お友だちとあそびたいなあ」といった、みなさんからの声が聞こえてきそうな気がします。

学校からの課題は進みましたか？「もう終わったよ、やる事がなくなっちゃったよ」そんな人もいるかもしれませんね。そんな人に提案です。お家で俳句を作ってみてはどうでしょうか？

赤堀東小学校のみなさんは、1年生の後半から毎週毎週俳句を作ってきました。校長先生は、みなさんの俳句を読むのがとても楽しみです。なぜかという、俳句が書かれた紙を通して、みなさんの成長ぶりが伝わってくるからです。字が少しずつ上手になってくること、枠の中にバランスよく書けるようになってくること、使える漢字が増えてくること、なんと言っても、「お名前」をすべて漢字で書けるようになった時の俳句に出会った時はとってもうれしいものです。

休校中の今、皆さんの俳句を読むことができずにとってもさみしいです。でも、時間があったらお家でいつものように俳句を作ってみてください。そして、書きためておいてください。学校が始まったら、上毛新聞の俳句の先生に見ていただきましょう。学校再開を願いながら、みなさんの作品を楽しみにしています。



伊勢崎 赤堀東小5年生に 佐藤さん特別授業
伊勢崎赤堀東小（霜田美幸校長）は27日、同校で上毛新聞ジュニア俳壇選者の佐藤清美さんを招いた特別授業を行った。5年生63人が俳句作りの決まりやコツを学んだ。写真。

言葉に感情託し作句
赤堀東小5年生に佐藤さん特別授業を受けた。最後に、佐藤さんは全員の俳句を読み上げ、俳句に関する質問も受けた。
佐藤さんは「春風」や「菜の花」「カエルの」「子猫」など、春の季語を紹介し、楽しい「うれしい」などの感情を直接書くのではなく、俳句の中に登場する対象に託すよう、アドバイスした。
児童たちは、日常生活の出来事を振り返りながら、作句に挑戦。友人にテーマを相談したり、俳句を見せ合ったりした。

【上毛新聞】令和2年2月29日掲載 5年生 俳句教室

ジュニア上毛賞 俳句 学校賞

本校では、教育活動の一環として、俳句づくりを行っています。子供たちの俳句は全て上毛新聞社に投句しており、昨年、本校の投句数は県で1位となりました。また、学校賞（*注）もいただくことができました。毎日こつこつと続けたことが、大きな成果となりました。

*注 学校賞は、年間の入選句数が100句を超える学校に授与される賞で、昨年は県内で7校（詩での受賞校を含む）が受賞しました。

